

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>				<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15				<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		-		<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.60				
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-							
1.3 吸音		-		<b>3.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.1</b>	0.35				<b>2.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.2</b>	0.50				
1 室温		-		3.0	0.38				
2 外皮性能		窓システムSC:0.48、U=3.33(W/m2K)程度、外壁その他: U=0.54(W/m2K)		4.0	0.25				
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38				
2.2 湿度制御		-		<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式		-		<b>1.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.9</b>	0.25				<b>2.9</b>
3.1 昼光利用				<b>2.4</b>	0.30				
1 昼光率		-		2.0	0.60				
2 方位別開口		-							
3 昼光利用設備		-		<b>3.0</b>	0.40				
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御		-		3.0	1.00				
3.3 照度		照度が500lx以上1000lx未満。		<b>4.0</b>	0.15				
3.4 照明制御		-		<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.2</b>	0.25				<b>3.2</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		<b>4.0</b>	1.00				
4.2 換気				<b>2.6</b>	0.30				
1 換気量		建築物衛生法を満たす換気量1.2倍以上となっている。		4.0	0.33				
2 自然換気性能		-		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.33				
4.3 運用管理				<b>2.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-		3.0	0.50				
2 喫煙の制御		-		1.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.1</b>	0.40				<b>2.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>1.6</b>	0.40				
1 広さ・収納性		-		1.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応		-		1.0	0.33				
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				<b>2.3</b>	0.30				
1 広さ感・景観		天井高2.7m以上。		4.0	0.33				
2 リフレッシュスペース		-		2.0	0.33				
3 内装計画		-		1.0	0.33				
1.3 維持管理				<b>2.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		-		2.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.3</b>	0.30				<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.2</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒管(C)、Eは不利用。		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>2.6</b>	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20				
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	$0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$ 。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	電気配線は空配管内に設置されます。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	通信配線は空配管内に設置されます。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.1
1 生物環境の保全と創出		-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> = 0.87。	4.3	0.20	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI <sub>m</sub> =0.77。LED 照明設備を導入。	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水		-	1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床シート。	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロアを利用している。それに「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が83%。	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) 0.4 U値(W/m2K) 窓システム 3.3 屋根 0.5 外壁 0.5 床 0.4 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.7 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.95 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 22.6%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 35% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 35%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.87 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.77 住宅 - 太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 163% 隣棟間隔指標Rw 0.24 地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積Sb 518㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 21.5 m 基準高さHb 14.74 m 緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡